

6 レタスのハスモンヨトウに対する有効薬剤

ねらいと成果

淡路地域における主要作目としてレタスがあるが、近年ハスモンヨトウの多発により、被害が問題となっている。レタスのハスモンヨトウの登録薬剤は少なく、現地では使用薬剤が偏っている状況にあり、抵抗性の発達などの問題が危惧される。そこで、主にレタスのハスモンヨトウ登録薬剤を用いて防除効果を検討したところ、クロルフルアズロン乳剤とテフルベンズロン乳剤は効果が認められるものの遅効性であった。チオジカルブフロアブル、クロルフェナピルフロアブル、エマメクチン安息香酸塩乳剤は即効性で効果の高いことが明らかとなった。

内容

試験は1999、2000年の秋に図の薬剤について行い、散布各区全株の生存幼虫数を調査し、防除価を算出した。また、1999年は可販率、球重についても調査した。

1999年の試験結果では、クロルフェナピルフロアブルは即効性で、散布2日及び9日後には防除価が80以上と高い防除効果が認められた。また、レタスの1株あたり重量が大きくなり、可販率も無処理の3倍以上と高くなった。テフルベンズロン乳剤は遅効性であったが、散布9日後の防除価は高かった。また、球重が無処理の150%、可販率も無処理の3

倍以上になった。メソミル水和剤は即効性で、散布2日後の防除価は高かったが、球重は他の2剤と比較してやや軽くなり、可販率も無処理の2倍程度であった(図1、2)。

2000年の試験結果では、チオジカルブフロアブル、クロルフェナピルフロアブル、エマメクチン安息香酸塩乳剤は即効性で、散布3日及び7日後には高い防除価を示した。クロルフルアズロン乳剤とテフルベンズロン乳剤は遅効性で、散布7日後に防除効果が認められた。(図3)。

普及上の注意事項

ハスモンヨトウの発生は9月から11月頃まで続くため、必ずフェロモントラップを設置し、成虫の発生状況を把握する。また、定植初期(発生初期)の防除薬剤としてはクロルフルアズロン乳剤、テフルベンズロン乳剤のような遅効性であるが残効の長いIGR系の薬剤を用い、直接減収に結びつく結球初期の防除薬剤としては即効性であるチオジカルブフロアブル、クロルフェナピルフロアブル、エマメクチン安息香酸塩乳剤を用いることで効率的に防除できる。

田中 尚智(淡路農技・農業部)
(旧 病害虫防除所)

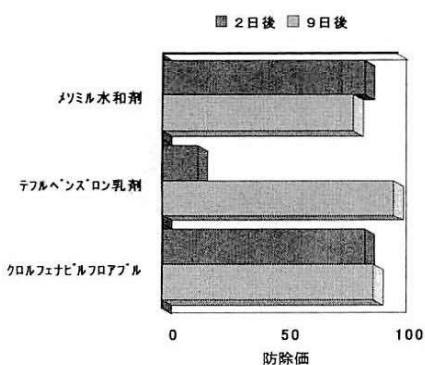


図1 ハスモンヨトウに対する防除効果(1999年)
定植日(9/1), 散布日(9/22)

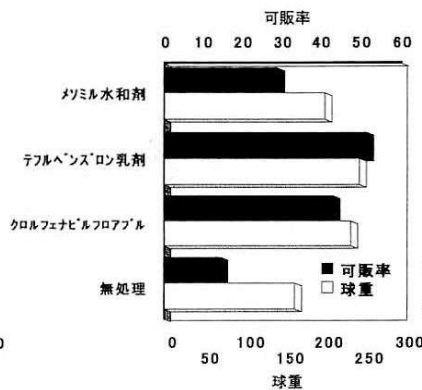


図2 レタスにおける可販率と球重(1999年)

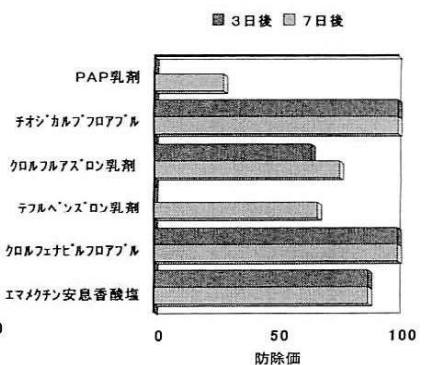


図3 ハスモンヨトウに対する防除効果(2000年)
定植日(9/14), 散布日(10/5)